

評価結果公表票

作成日 平成20年1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	270101397
法人名	有限会社ナナカマド
事業所名	グループホームななかまど
所在地	青森市大字野尻字今田53-7 (電話) 017-728-7666
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(平成19年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	一人部屋 30,000円、二人部屋 25,000円	その他の経費(月額)	理美容代実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要( 8月15日現在 )

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	11 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	盛ハートクリニック、ミナトヤ歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆっくりと、自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」という理念を掲げており、利用者一人ひとりのペースや希望、プライバシーを大切にケアを提供するよう心がけるとともに、利用者の生活歴に応じた家事等の役割を持ってもらうなど、理念の実践に向けた取り組みが行われている。  
 介護計画作成時には利用者に同席してもらったり、家族の同席を検討する等、より具体的な計画となるよう工夫するほか、定期的な試行調査の実施を予定するなど、利用者が生き生きと楽しく暮らせるための体制作りが行われている。  
 共用空間にはテーブルやソファ等が置かれているほか、花等も飾られており、家庭的で季節感のある空間となっている。また、居室には仏壇等の馴染みの品が持ち込まれており、落ち着いて過ごせる環境作りが行われている。

【特に改善が求められる点】

職員個人レベルでの外部研修の受講はあるが、ホームとしての方針は立てられていない。これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員の意向を聞く等の取り組みにより、おおよその内部・外部研修の年間計画を立てるなど、全職員が力量に応じた研修に平均的に参加できるような体制を整えてはどうか。  
 虐待や身体拘束のないケアを心がけているが、虐待を発見した場合の対応や、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の対応が整備されていないので、全職員での話し合い等を通じて取り決めを作成することに期待したい。  
 無断外出時や災害時に地域からの協力が得られるための働きかけが行われていないので、運営推進会議のテーマとして取り上げる等、検討してはどうか。  
 感染症に関する注意事項は作成されているが、疥癬等の高齢者施設で予想される感染症について十分な取り決めが作成されていないので、医療機関等の協力を得て予防対策や対応などを明記したマニュアルを作成することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は会議等で検討しており、改善に向けて速やかに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>朝の申し送り時等を活用して評価のねらいや活用方法等を職員に周知しており、自己評価を作成する時には全職員での話し合いを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議のメンバーである町内会長や家族等には文書などで参加を呼びかけている。会議では日々の暮らしぶりや取組み等を報告したり、自己・外部評価の結果を報告予定である。また、委員からの意見は日々のサービス向上につなげていきたいと意欲的である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や毎月の通信等を利用し、日々の暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、金銭管理状況に関する記録をつけており、報告時には領収書を添付している。重要事項説明書や玄関にはホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、家族から意見等が出された時には速やかに対応する仕組みとなっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者及び職員は、地域との付き合いの大切さを十分に理解しており、町内会への入会を検討したり、近くの幼稚園との交流を図る等、地域との関わりを深めるための取組みを行っている。また、利用者のプライバシーに配慮した上で、見学や学生ボランティア等の受け入れも行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者及び職員は、地域との付き合いの大切さを十分に理解しており、町内会への入会を検討したり、近くの幼稚園との交流を図る等、地域との関わりを深めるための取組みを行っている。また、利用者のプライバシーに配慮した上で、見学や学生ボランティア等の受け入れも行っている。</p>

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>利用者も地域で暮らす方と同じような生活をしてほしいとの思いから設置されたホームである。新採用時や申し送り等を通じて全職員への理念の周知を図っており、職員は理念を常に意識して日々のケアを提供するよう努めている。</p> <p>職員の異動による利用者への影響に配慮し、配置換えはほとんど行わない方針をとっている。新しい職員を採用したり配置換えを行う時には、これまでの職員と新しい職員と一緒にケアを提供する等の詳細な引継ぎを行うとともに、利用者への十分な説明を行う仕組みとなっている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用希望者や家族が納得してサービスを開始できるよう、ケアマネジャーとの連携を図るほか、ホームを見学してもらったり利用希望者宅を訪問する等、十分な話し合いを持つ機会を設けている。</p> <p>職員は利用者との作業等を一緒に行うことを通じて一人ひとりの思いを理解するよう努めている。また、漬物作りや野菜作り等の利用者ができることは手伝ってもらうなど、利用者職員が支えあいながら暮らす関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者との日々のコミュニケーションや家族との関わりを通して、一人ひとりの希望等を把握するよう努めており、通院時の送迎を行う等の柔軟な対応を行っている。</p> <p>一人ひとりの受療状況を把握しており、入居前からのかかりつけ医などの利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、かかりつけ医にはいつでも気軽に相談することができる。受診結果は毎月の通信等を通じて家族に報告しており、共有が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定することなく、「さん」付けで利用者と呼ぶ等、一人ひとりのプライバシーに配慮した支援を行っている。また、馴れ合いにならないよう、言葉遣い等に関する内部研修を実施する予定となっている。</p> <p>基本的には週2回の入浴となっているが、希望に応じて毎日入浴することができる。また、利用者の羞恥心に配慮して同性介助を行う等の支援も行われている。</p> <p>外注業者を通じて献立に関する指導や助言が得られる体制となっており、栄養バランスに配慮されたものとなっている。また、食事や水分の摂取量を記録する等、利用者の健康管理に努めている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者も地域で暮らす方と同じような生活をしてほしいとの思いから設置されたホームである。「ゆっくりと、自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」という理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割が反映されていない。	○	全職員で検討を行う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を反映させてはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新採用時や日々の申し送り等を活用して理念の周知を図っており、職員は理念を常に意識して日々のケアを提供するよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者及び職員は、地域との付き合いの大切さを十分に理解しており、利用者が近隣の商店に買い物に出かけるほか、町内会への入会を検討したり、近くの幼稚園との交流を図る等、ホームを理解してもらえるよう努めている。また、見学や学生ボランティア等を受け入れており、その際には利用者のプライバシーには十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝の申し送り時に評価のねらいや活用方法等を職員に周知しており、自己評価は全職員で話し合いながら作成している。また、外部評価の結果を会議等で検討しており、改善に向けて速やかに取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町内会長や家族等が参画しており、文書での参加を促すほか、家族には面会時にも参加を呼びかけている。会議では利用者の状況や日々の取り組み等を報告するほか、自己・外部評価の結果についても説明予定である。また、委員からの意見は日々のサービス向上につなげていきたいと意欲的である。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にホーム便りを配布するほか、外部評価の結果が出た際には報告する予定である。また、課題等があった時には行政との連携を図りながら取り組んでいきたいと意欲的である。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業等について概ね理解しているが、職員は個人レベルでの取り組みはあるものの、ホームとして外部研修に職員を派遣したり、内部研修を実施する等の取り組みを行っていない。	○	交代で外部研修に職員を派遣したり、その後の伝達研修を実施する等の取り組みにより、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は虐待について理解している。管理者は虐待を未然に防ぐために職員の日々のケアを観察する等の取り組みを行っているが、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等に関する取り決めが作成されていない。	○	虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等について取り決めを作成し、それを全職員に周知してはどうか。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書や重要事項説明書等を用いて十分に説明を行い、疑問等を引き出すよう働きかけている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明を行い、同意を得ている。退居時には必要に応じて退居先への情報提供等も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月発行している通信を利用して、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、金銭管理状況は記録し、領収書を添付して家族に報告するほか、職員の退職等の時は随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず家族の話聞くよう努めるほか、電話でも対応している。また、重要事項説明書や玄関にはホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、家族から意見等が出された時には速やかに対応する仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、配置換えはほとんど行わない方針である。新しい職員を採用したり配置換えを行う時は、これまでの職員と新しい職員と一緒にケアを提供する等の詳細な引継ぎを行うほか、利用者への十分な説明を行う仕組みとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人レベルで外部研修を受講しているが、ホームとしての取り組みは行われていない。また、受講後は申し送り時等を活用して他の職員に伝達しているが、報告書を作成するまでには至っていない。内部研修は今後実施予定であるが、内部・外部研修の年間計画が作成されていない。	○	ホームとして職員の研修受講に関する方針を立てるとともに、おおよその内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。計画作成の際には、これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員の意向を聞く等の取り組みを行ってはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主導となり、地区内の同業者との交流を図ったり、研修会を実施している。研修会等で得たことは業務時や申し送り時等に伝達している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族が納得してサービスを開始できるよう、ケアマネジャーとの連携を図るとともに、ホームを見学してもらったり、利用希望者宅を訪問する等、十分な話し合いの機会を持っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者として作業等と一緒にいることを通じて、一人ひとりの思いや行動を理解するよう努めている。また、野菜作りや漬物作り、掃除等、利用者ができることは一緒にするなど、利用者職員が共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のコミュニケーションを通して一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。また、必要に応じて家族からの情報収集も行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者に同席してもらったり、日々の言動を観察する等、一人ひとりの意見や希望等を把握するほか、家族の同席も検討している。また、ケース会議で十分に話し合いを行った上で計画を作成しており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、6ヶ月に1回の見直しを行っている。また、利用者の状態や家族の要望等に変化があった時は随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を常に聞くよう努めており、通院時の送迎等を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ケアマネジャー等からの情報により、一人ひとりの受療状況を把握しており、入居前からのかかりつけ医等、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、かかりつけ医にはいつでも気軽に相談することができる。通院方法や受診結果の報告方法については家族との同意が図られており、毎月の通信等を通じて家族との共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化には対応しており、方針を明確にしている。また、重度化した場合に備えて、利用者や家族の希望を大切にしながら早い時期から医療機関からの助言をもらう等の対応を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、「さん」付けで利用者と呼んだり、入浴時は同性介護を行う等、一人ひとりのプライバシーに配慮した支援を行っている。また、馴れ合いにならないよう、言葉遣い等に関する内部研修を実施する予定となっている。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、利用者に関する記録は訪問者等の目につかない場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや状態に配慮しながら、言動を急かさずことなく、利用者の訴えをなるべく尊重するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から利用者の好みを聞くよう努めるほか、定期的な嗜好調査を実施する予定である。盛り付けや食器洗いを利用者と一緒にしたり、職員も一緒にテーブルを囲んで食事を摂る等、声かけやさりげないサポートをしながら食事時間の会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、希望に応じて毎日入浴することができる。また、一人ずつの入浴を基本とし、同性介護で対応する等、利用者の羞恥心への配慮が行われている。入浴を拒否する利用者には時間を置いて声かけする等、無理強いすることなく対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量等を把握しており、毎朝の新聞取りや園芸、掃除、食事の盛り付け等を役割や楽しみごととして行ってもらっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩やコンビニに出かけるほか、外気浴を行う等、一人ひとりの希望や身体状況に合わせて外出の機会を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、身体拘束のないケアを行うよう日々職員に指導しており、拘束のないケアが実践されているが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由等の記録様式や家族の同意を得る等の体制を整備するまでには至っていない。	○	内部研修を通して拘束の内容について再確認するとともに、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えた対応を検討してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や利用者が出入りする場所は施錠しておらず、外出傾向を察知できるよう職員は見守りを行っている。察知した時には職員が付き添う等の対応を行っているが、無断外出時に備えて近隣からの協力が得られるための働きかけは行われていない。	○	運営推進会議や町内会長等を通して、無断外出時には協力が得られるような働きかけを行うことに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と職員と一緒に避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練や、災害時に地域からの協力が得られるための働きかけは行われていない。また、食料や飲料水等の備蓄品も用意されていない。	○	夜間を想定した訓練や運営推進会議等を通じての地域への協力呼びかけを行うとともに、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注業者を通じて専門家からの指導や助言が得られる体制となっており、献立は栄養バランス等に配慮されたものとなっている。また、おやつの時間等を利用して水分摂取を促しており、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	必要に応じて感染症について勉強する機会を設けたり、通信等を利用して家族への情報提供を行っている。感染症に関する注意事項を作成したり、保健所等と連携して最新情報を得よう努めているが、疥癬等の高齢者施設で予想される感染症について十分な取り決めが作成されていない。	○	外部研修への参加や内部研修の実施、医療機関等の協力を得ながら、流行が予想される感染症の予防対策や対応等を明記したマニュアルを作成することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテーブルやソファ等が置かれており、ゆったりと過ごすことができる。また、花や季節感のある装飾品も飾られている。職員が立てる物音やテレビ等の音量、室内の明るさも適切であり、落ち着いた空間となっている。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族に馴染みの物の持ちこみを促しており、居室には仏壇等の品が持ちこまれ、個性的で居心地のよい空間となっている。		

※  は、重点項目。